

関東森林研究 第 71 巻 投稿チェック表

投稿の際に提出していただく必要はありませんが、原稿受付が円滑の進むよう投稿前の確認に使用されることをお勧めします。

原稿用紙と一般的な注意事項

- 「原稿テンプレート 2019 年度版」を用いて作成した原稿である。
- 原稿が規定の枚数である。
- A 4 版(縦長, 横書)用紙上に, 余白を上下約 30mm, 左右約 25mm とり, 1 行 25 字(全角換算), 45 行とし, 縦 2 段組となっている。要旨は段組とせず, 1 行 52 文字となっている。
- 本文および要旨の文字は, 和文では MS 明朝体, 英文では Times New Roman を基本とし, 9 ポイントで記載されている。
- 和文の場合, ひらがな, 左横書き, 新仮名遣いとし, 学術用語以外は常用漢字を用いている。
- 要旨および本文中の句読点は, 「。」「,」, 引用文献中は「.」「,」(いずれも全角)を用いている。
- 図, 表中の文字を除いて, 和文および 1 桁の数字, 記号として使う欧語は全角を, 2 桁以上の数字および欧語, 単位は半角を用いている。
- 学名はイタリック体(斜体)となっている。
- 図, 表を含めて原稿枠(余白は上下 30mm, 左右 25mm)をはみ出していない。

表題, 著者および所属機関名 (和文・英文)

- 継続研究 (I), (II) にしないで, 個々の論文は独立した表題になっている。
- 表題および著者名, 所属機関名等の書き方は「原稿テンプレート 2019 年度版」になっている。

要旨とキーワード

- 論文には 350 字(速報は 250 字)以内の和文要旨がついている。
- 論文には 200 語以内の英文要旨がついている。
- 要旨中で図・表・文献を引用していない。
- 内容を表すキーワード(5 語以内)がついている。論文では英キーワードもついている。
- 要旨とキーワードの間は 1 行あけていない。
- キーワードと本文の間は 1 行あけていない。

本文

- 大見出しは、I はじめに、II 調査地の概況（材料と方法、調査方法）、III 結果と考察、IV おわりに、のようにローマ数字（ピリオドなし）をつけ、太字になっている。文章は行をかえて書きはじめている。
- 中見出しは1コマ下げ、1. 2. のように算用数字（ピリオドあり、ピリオドは全角）をつけ、太字になっている。
- それ以下の見出しは適宜、適切に秩序だてて表記されている。
- 文献の引用は、引用文献番号を（1）、（2,3）のように記述し、番号はイタリック体(斜体)になっている。

数式

- 数式は本文途中に入れずに別行とし、1字（全角換算）分下げて書かれている。
- 数式の変数はイタリック体(斜体)、単位は立体とし、数式が複数行にわたる場合でも混乱が生じないようにしている。

引用文献

- 引用文献は著者名のアルファベット順（引用順は認めない）に記載し、頭に括弧付きで文献番号をつけ、文献ごとに行をかえてある。文献番号は立体である。
- 英文の著者名は頭文字のみ大文字で記載する。（例：Fisher JD, Horton M, Okuda S）
- 誌名の略記法は和文、欧文ともに慣例（関東森林研究、日本森林学会誌等）になっている。
- 引用文献の巻、号については、巻に通しページがある場合は巻のみとし、通しページがないときは巻、号を併記している。単行本の場合は総ページもしくは引用ページと、出版名、出版社の所在都市を記載してある。

コメントの追加 [MOU1]: 投稿チェック表では「英文著者名は全て大文字で記載」と書かれているので、投稿チェック表の修正が必要です。

図および表

- 図・表は本文の最後にまとめて配置するか、本文中の適当な位置に挿入されている。文中に図表を挿入する場合は、図表があまり小さくならないようになっている。
- 図は印刷時に鮮明であるとともに、モノクロ印刷でも判読できる。
- 図の表題は図の下に、表の表題は表の上に、図-1. 表-1. のように見出し（ピリオドあり、ピリオドは半角）をつけ、1字（全角換算）分あけて続けてある。図・表の表題の末尾には句読点をついていない。
- 表題の文字の大きさは本文と同じであり、図・表の文字・数字の大きさは、本文の 2/3 より大きい。